



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ  
**東北こそだてレター (被災地の今...)**

2014/03/18 配信 vol.19

～ ベビースマイル石巻のサロン利用者の声から考える、母親同士をつなぐ場づくりの意義 ～

◆ 支援実績 (2014/2/28 現在)

<支援母子数>

- ・2014年2月計 657組
- ・プロジェクト開始より累計 11,662組 (2012/7～2014/02)

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビー体操／ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。 一般社団法人ジェスペールです。

あの東日本大震災から3年が経ちましたね。もう3年というべきか、まだ3年というべきか。

メディアで、震災時に生まれた子がもう3才！という情報があり、ちょこちょこ動くかわいらしい3才の子の映像を併せて見ると、「もう3年」と思われます。

一方で、「まだ3年」の方もきつといらっしゃるのでしょうか。そのような方のお気持ちが少しでも安らかになっていくよう祈りたいと思います。

今回は、宮城県石巻市で主に活動しているベビースマイル石巻のサロンに参加している母親たちからのお便りを紹介します。

お便りからは、ベビースマイル石巻が結ぶ母親同士のコミュニティが、母親たちの子育てを支えていることが感じられます。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ ベビースマイル石巻のサロン参加者からのお便り

あの日から3年——。どんな思いを抱え、そしてどういう気持ちであの日を迎え過ごしたのでしょうか。こうして、あの日から3年となり、そして今後5年、10年と年数が積み重なっていくごとに、「現在進行形の災害」という認識が、「過去の出来事」という認識へと完全に切り変わってしまうのでしょうか。

でも、現地ではまだ、復旧も、支援活動も、そして震災後の日常生活も、現在進行形です。

宮城県石巻市の母子サロン「ベビースマイル石巻」も、月に十数回のサロン活動を、現在も変わらず続けています。今回、あらためて利用者の声を聞いてみたところ、サロンと言う場が母子にとってどれだけ大きな意味を持つ場所なのか、どれだけ求められている場なのか、再認識させられました。

現在も、ジェスペールの支援によって救われている人たちがいる。そして、これからも、ジェスペールの支援を必要としている人たちがいる——。

今あらためてこのことを胸に刻み、これからも引き続きジェスペールを支援していただけたら幸いです。



◆「サロンに通うことで私もママ友だちができ、共感したり、刺激をもらいながら子育てを楽しめるようになりました」◆  
——津波で家を流された石巻市の女性。2男児の母。

仮設住宅に当選するまでの半年間は、実家の福島に身を寄せる生活。原発事故による放射能の影響で、外に出ることはなかなかできませんでした。もちろん子どもたちも外で遊ばず、パワーが有り余る子どもたちに、室内遊びで我慢してもらう日々でした。

石巻に帰りたい。でも、帰れない。

仮設住宅によりやく当選し、引っ越しも落ち着いたころ、仲の良い友だちが声をかけてくれました。「ママ友だちをつくったり、子どもたちを遊ばせたいならベビースマイルというサークルに参加してみない？」。

サロンに通いはじめると、子どもはサークルのお友だちと仲良く遊ぶようになり、その様子を見た私は、ホッとした気持ちとうれしさで胸がいっぱいになりました。ベビースマイルは、体操や体験、モノづくり、季節のイベント、そして心のケアまで、たくさんの分野で親子で楽しむことができます。私は継続して参加するようになりました。



充実の内容に加え、私が継続して参加してきたのには、もう一つ理由があります。震災後、金銭的に不安定で生活も不安だらけだった中、このサロンにはお金の心配をせずに参加することができたからです。金銭的な心配をせずにイベントやサロンに参加できたこと、皆さまの支援に心から感謝しています。

私のように県外からお嫁にきてママ友だちもいなくて悩んでいる人がいたら、勇気を持って一步を踏み出してサークルに参加してほしいです。親子で楽しめるし、悩みを共感しあえるので、プラスになると思います。

◆「サロンに参加することで、視野が広がりました」◆  
——2年半続けてサロンに参加している石巻市の母

サロンに参加する前は、知り合いも少なく、周囲の人との交流もなかったため、家にこもりがちでした。母子の心身の健康と、友達づくりのために参加したところ、子育てしている方々とつながっているという安心感、さらに、交流できる楽しさも味わえるようになりました。

自分以外の子育ての様子にふれることができると、視野が広がりました。そして視野が広がると、それだけいろいろ考えられるようになり、とても助かりました。ほかのお母さんと交流できたことも、日常生活の中で心の支えとなりました。

◆「『ママのため』を考えて、それを実現してくれるベビースマイル石巻は、石巻の誇りです」◆  
——石巻市で3人の子どもを育てている母

仙台から石巻市に引っ越して驚きショックを受けたことは、子どもが遊べる場所が少ないこと。近所にも同じ年ごろの子どもがおらず、公園に行っても貸し切り状態でした。友達ができずに淋しかったので、友達づくりの場を求めて、サロンに参加しました。

サロンはイベント自体が楽しく、ほかの方たちと触れ合えるのも楽しい場です。最近は顔見知りの方が増えて自然に話ができるようになり、以前のような「友達がなくてさみしい」という思いはなくなりました。

子どももお友だちと触れ合うことで、順番を待つことや、「貸して」「いいよ」ができるようになりました。一緒に遊ぶことが楽しい様子です。

初めて、しかも一人で参加する時は、誰でも緊張すると思います。でも、ベビースマイル石巻は、スタッフの方が話しかけてくれるので、気が楽になります。きっと、スタッフの方が「初参加の方には声かけをする」ということを心がけてくれているのではないのでしょうか。

最近では、イベントの時に子守をしてくれるサポーターの方、そしてイベントに参加してくれる助産師さんや保健師さん、栄養士さんなどにいろいろな相談をすることもでき、すごくありがたく思っています。



◆ 被災地で助産師が育児支援を継続するための車を購入しよう！  
 - 「まんまる」車購入プロジェクト目標達成のお礼とご協力をお願い -  
<https://readyfor.jp/projects/tohokumama>

ジェスパーが支援している団体「まんまる」の活動継続のための車購入プロジェクト（「READYFOR?」で実施）を実施しています。

「まんまる」の活動継続は、岩手県ママ達が安心して子育てできる環境を整備していくためものです。

当プロジェクトは目標金額を達成し、プロジェクトとして成立が確定となりました。ご支援いただいた皆様、本当にありがとうございます。

プロジェクト終了は3月28日で、まだまだご支援を募集中です。購入を予定している車は200万円以上かかるものであるため、寄付していただければそれだけまんまるの自己負担分が減ります。

引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。



◆ 無印良品 ネットストアで募金の対象に採用されました  
<http://www.muji.net/store/cmdty/donation/>

無印良品 ネットストアで、募金の対象に採用されました。  
 被災地でこそだてするお母さんたちに少しでもご協力をお願いいたします。



◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスパーの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスパーメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



発行者： 一般社団法人ジェスパー

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>  
 Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：[info@tohokumama.org](mailto:info@tohokumama.org)  
 Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>

